

松村正直自選 10首

抜かれても雲は車を追いかけない雲には雲のやり方がある

それ以上言わない人とそれ以上聞かない僕に静かに雪は

あなたとは遠くの場所を指す言葉ゆうぐれ赤い鳥居を渡る

そのむかしこどもがひとりころされし神社にひとりこどもがあそぶ

「やさしい鮫」と「こわい鮫」とに区別して子の言うやさしい鮫とはイルカ

踏切に列車過ぎるを見ておれば枕木はふかく耐えているなり

烏瓜の揺れしずかなり死ののちに語られることはみな物語

コースからしずかに逸れてゆく馬を見ており秋の競馬場にて

体幹がまずは熱ほめきてそののちを指の先まで花ひらきたり

一度しかない人生の一度目を生きて迷えり昼のメニューに